

第13回スクールミーティングにおける意見交換内容について

- 1 日 時 平成28年2月1日（月）16時30分から18時00分まで
- 2 会 場 熊本市立錦ヶ丘中学校 第2音楽室
- 3 参加者 教育委員会 6名（岡教育長、崎元委員、森委員、泉委員、田口委員、出川委員）
教 職 員 14名（錦ヶ丘中5名、尾ノ上小3名、月出小3名、山ノ内小3名）
その他教育委員会事務局
- 4 意見交換のテーマ
 - ① 確かな学力の向上について
 - ② 健やかな体の育成について
 - ③ その他
- 5 主な意見交換内容について

（◆：質問 ○：意見 ▼：要望）

テーマ	項目	教職員	教育委員会
①	保幼・小・中の連携の推進について	○保育所、幼稚園・小学校・中学校をつなぐための取り組みである保幼・小・中の連携は、連携の日を通して進められている。ただ、子どもたちが小学校、中学校それぞれで身につけるべき力が明らかにされていないように感じる。 また、子どもたちの状況は家庭の状況により違いがあり、例えば中学生においては、夜遅くまで塾に通い、部活の朝練に参加するため、授業中に疲れている姿が見られる。 子どもたちにとって保幼・小・中の期間を通じた継続した学びとなるよう、学校現場がそれぞれの役割を果たしていくこと、加えて家庭学習を充実させていくことが必要である。	◆保幼・小・中のそれぞれの役割を果たしつつ、さらに連携を強化していくような取り組みとは具体的にどのようなことか。
	研究指定校に伴う予算について	○小・中連携の日に紹介した中学校の無言掃除、授業開始2分前着席の取り組みを、小学校でも実施してもらったところ、効果的だったと聞いた。家庭学習についても、小学校と中学校が一緒になって効果的な取り組みを検討していくことが必要である。 ずっと中学校で勤務してきたが、小学校の授業を参観する中で、小学校の教員が子どもと向き合う姿勢に感銘を受けた。中学校においてももっと丁寧に子どもに向き合っていかなければならないと感じている。 ▼学校独自に運用できる予算が必要である。子どもたちの力を伸ばすために必要な教材や研究図書、プロジェクタなどの機材が不足している。	○保幼・小・中の連携をさらに進め、次のステップへの移行を検討することが必要である。
	全国学力・学習状況調査の生かし方と学力向上について	○全国学力・学習状況調査の膨大な分析結果があるが、学校現場で生かされていない。また、子どもたちが苦手な分野を克服するための支援問題の作成メンバーとして携わったが、ただ問題を作成して配布し解くだけでは本当の学力はつかない。苦手な分野の単元の授業を充実させることが重要であり、その授業のための指導法を学校へ提供していくような取り組みが必要である。	

テーマ	項目	教職員	教育委員会
		○先ほどの発言と重複するが、苦手な単元の洗い出しとその単元の授業を工夫していくためには、教員が教材研究をする時間が必要である。また、家庭学習の充実が重要である。学校から家庭への働きかけは難しい。行政からの働きかけをお願いしたい。 なお、今は子どもたちと塾との関係も切り離せない状況がある。学校の授業と部活、塾とのバランスを考えながら、家庭と協力し、子どもたちに対応していかなければならない。	◆学力を上げるためには、具体的にどのような取り組みが効果的か。
	家庭との連携について	○学校からPTA懇談会のときに「家庭学習のお約束」というお知らせを配布している。また、家庭学習を30分、学年が上がるごとに10分プラスして行っていくよう、子どもたちに指導するとともに、家庭に対してもお願いしている。 宿題の提出状況によっては、担任が子どもに個別指導を行っている。また、音読を保護者に聞いてもらい確認のサインをしてもらうなど、家庭の関わりができるよう工夫している。 学校だけでなく、保護者が子どもの学習状況を把握することが必要である。 ○保護者の子どもへの関わり方について、子どもが低学年のときから習慣化できるよう、例えば算数の宿題の丸つけを保護者に行ってもらうなどの取り組みを実施している。 ○朝ごはんをきちんと食べさせる家庭の子どもは学力が高い話を聞くが、朝食の習慣だけではなく、そのような家庭は子どものしつけをしっかり行っている。学習だけでなく、子どもに力をつけさせるためには毎日の積み重ねが必要である。小学校のときは勉強部屋で勉強させるのではなく、保護者の目が届き、声をかけることができる場所で勉強させてほしいと思う。 また、低学年のころは保護者も子どもへの関心が高いが、中学年になると関心が低くなる。そのような傾向とならないよう、学校でもフォローしていかなければならない。	◆家庭により、学校や子どもへの関心度には差があると思うが、あまり関心がない家庭へはどのように対応しているのか。 ◆子どもの生活環境や学習環境の改善については、保護者だけでは担えない事例が発生している。行政がどのような取り組みを実施していけばよいか検討しなければならない。 ◆家庭への働きかけについて中学校の対応はどうか。

テーマ	項目	教職員	教育委員会
		○心と体の健康があつてこそ、学力は向上するものとする。体調不良で保健室を利用する子どもの原因の一つに睡眠不足が挙げられる。中学生は忙しく、塾に行っている子どもも多い。例えば、夜11時に塾が終わり、夕飯を食べて、それからお風呂に入って宿題をして、夜1時に就寝する。保護者会でも話をするが、保護者の中にはそのような生活が当たり前だと思っている方もいる。保護者も含め、就学前や小学校など早い段階での教育の充実が必要だと感じている。 ○家庭訪問を4月に行うことで、学級開きに支障があると感じている。4月をゆとりのあるものにするすることで、学力の向上にもつながると思う。 ▼授業時数の確保については、土曜授業の議論もある中、家庭訪問のあり方や実施時期の変更などにより、4月の授業時数の確保を検討してほしい。	家庭訪問の良さは、子どもの生活の様子や情報を把握することができることであり、意義のあることである。また、学級開きについてであるが、28年度は4月の始業日を1日後ろにずらすなど、日程の調整を行った。本市は九州各県の状況に比べると、1学期の始業日までの日程には余裕がある。ご理解いただきたい。（事務局）
	外国語活動と言語活動の充実、教員同士の情報共有について	○外国語活動は国語と同じく、言語活動の充実という必然的なゴールがある。子どもたちに身につけさせたい力を設定し、そのための活動を作り出す、そのような視点をもって授業を進めることが必要である。 ○子どもに対し、年度当初にゴールをしっかりと示す必要がある。また、言語活動は、積み重ねが重要である。 ○熊本市の方針は示されているが、学校に任されている部分は大きい。 ○錦ヶ丘中は英語研究の指定を受けており、英語科においては、週に1度必ず教科会を日課表の中に位置づけて実施している。しかし、他教科においては、教科会を実施する時間を確保するのは厳しい状況がある。	◆学校単位や学年単位でそのような目標やゴールを設定していくのか。 ◆学校単位や学年単位で情報を共有したり、目標を設定したりする時間は充実しているか。

テーマ	項目	教職員	教育委員会
		○勤務時間内に確保することは難しいが、学年単位で情報を共有するよう努めている。 ○尾ノ上小では、英語専科の教員がいる。担任として授業の進め方が難しい部分に指導、助言をしてもらうことができ、たいへん助かっている。 ○月出小では、英語専科がいない。ALTとの打ち合わせをしっかりと行いたい、10分間の休み時間に行わざるを得ないなど、十分な時間が取れない。	◆他の学校では、教科会や情報を共有するための時間は確保できているか。
	家庭環境に課題がある場合の対応について	○宿題の提出ができない子どもに対して、休み時間を使ったり、放課後を活用したりして、宿題ができるよう、工夫している。 ○宿題は必ず提出できるよう習慣づけることが必要である。子どもの状況を見ながら、宿題の量を工夫していくことも効果的だと思う。	
②	運動部活動と子どもの体力について	○子どもの体力については、運動部活動が効果的であると感じている。5、6年生は5割以上が運動部活動に加入しており、体力については市の平均を上回っている種目が多い。一方、4年生の運動部活動加入は、男子3割程度、女子2割程度であり、体力については、ほとんどの種目が下回っている。運動部活動をしている子どもとしていない子どもの体力の差を感じる。基本的な生活習慣を身につけ、適度な運動をし、学力向上につなげるために、小学校の運動部活動は意義があるものと思う。 ○全ての子どもが運動部活動に加入することは難しく、指導する教員の確保も難しい。授業中に体力を上げる取り組みができれば良い。 ○英語の指定校に関して、小学校と連携しながら同じ課題に取り組んでいく中、小学校と中学校の距離感が近くなった。小中学校で共通した業務を連携して行うことは効果的であり、部活動でも同じ種目間で小中連携ができれば良いと思う。中1ギャップへの対策にもなると考える。	◆部活動に関しての小中連携とは具体的にどういうことか。 ○小学校の運動部活動については、教育委員会でもあり方を検討し、今年度中に方針が出せるよう取り組んでいる。運動部活動は子どもの体力向上や運動へのきっかけ作りなど、意義は大きいと考える。現在、運動部活動には、学校教育で行う範囲と競技力アップのための活動が混在している状況のため、整理していく必要がある。 ◆運動部活動の指針は守られているのか。

テーマ	項目	教職員	教育委員会
		○指針が出されて久しいこともあり、学校間の格差があると思う。教員同士、お互いが守っていかなければならない。指針をきちんと守ると、保護者からは熱心でないと言われることもある。	○熊本市では、小学校で運動部活動を行っているが、他の都道府県ではほとんど行っていない。しかし、熊本市の子どもたちの体力は、全国の平均に達していない種目が多い。運動部活動と体力の関係性は今後の検討課題である。
	外遊びと子どもの体力向上について	○子どもたちが遊びを選び、ここ10年で遊びの種類が変わってきた。鉄棒やうんてい、縄跳びをしなくなった。男子はサッカーをし、女子はシーソーなどの遊具で遊ぶ傾向がある。高学年になると外遊びそのものをしなくなっており、教員が外遊びを勧奨する必要がある。また、腕の力が落ちており、特に男子は縄跳びをほとんど行わない現状がある。 ○以前よりも取り組みは進んでいるが、休み時間はボール遊びや好きな遊びを行う傾向がある。	◆教育委員会では小学校の「わくわくチャレンジ長なわとび大会」にも取り組んでいるが、いかがか。
	中学校での部活動指導について	○中学校での部活動は生徒指導の意義も大きい。錦ヶ丘中では、生徒の56%が加入しており、500人程度が活動している。ただ、環境があまり良くなく、7つの部活動が体育館の使用を調整しながら活動しているが、夜間開放を活用して活動している部もあり、子どもたちの負担など影響も心配している。運動場では、野球部、サッカー部、陸上部が同じ敷地で練習を行っており、ボールが当たるなどの怪我が心配である。施設を充実させれば、子どもたちの負担も軽減されると思う。	
③	少人数学級と少人数指導の拡充について	▼35人以下学級の効果を感じている。学級が非常に落ち着く。小学校5、6年生に拡充をお願いしたい。4年生から5年生に進級したときに、落ち着きがなくなる。予算が厳しいことは理解しているが、ぜひお願いしたい。 ▼少人数指導の加配についても拡充をお願いしたい。錦ヶ丘中学校では、1学年8クラスあり、週4時間の数学の授業がある。1クラスを2つに分けた少人数指導は、週32コマの指導が必要になり、現実的には教員1人の加配では、学年全クラスで行うことができない。1クラスを2つに分けた指導を行うことで、子どもたちが自ら考えたり、発表したりする場面が増える。規模の大きい学校では、加配人数の拡充をお願いしたい。	○少人数学級や少人数指導の効果や拡充については、多くのご意見やご要望をいただいている。一方、国において、教職員定数の削減の議論がされている中、文科省が少人数学級や少人数指導の効果の実証に苦慮している現状がある。今後も引き続き国の動きや現場の意見を踏まえながら、対応していきたい。

テーマ	項目	教職員	教育委員会
		▼小学校においても、子どもたちの意欲が引き出されるなど、少人数指導の効果は大きいと感じている。また、教員の目が届きやすく、子どもたちへアドバイスする機会が増える。引き続き、加配配置をお願いしたい。 ▼月出小は理科の専科がない。実験の準備や子どもの安全の確保など、不安な状況がある。	
	学校配当予算の配当方法の見直しについて	▼平成28年4月から障害者差別解消法により、公立学校で合理的配慮の提供が義務化されることとなる。また、学校などの公共施設で事故が起きた場合、「通常有すべき安全性」を備えていないと、市は国家賠償法により無過失の賠償責任を負わなければならない。しかし、学校では施設の老朽化が進み、危険な箇所が多くある。また、本市においては、学校数が多いという理由もあり、予算的に老朽化対策が厳しく、優先度の高いものから取り組んでいるが、対応できていない箇所も多い。 錦ヶ丘中学校では廊下の老朽化により、滑りやすくなっていたため、防滑シートを張った。本校は学校規模が大きいため、ある程度の予算があり、そのような対応ができた。しかし、同規模の中学校と小学校では需用費の予算が中学校の方が200万ほど大きく、小学校で同じような対応は難しい。 そこで、現在、各学校に配当されている予算を、中学校区ごとに一括配当することを提案したい。予算規模が大きくなり、優先的・計画的な老朽化対策が可能となる。また、今までなかなか進まなかった小学校での安全対策が進み、学校間の予算格差も小さくなる。 平成29年度には県費負担教職員の給与負担事務が市に移譲され、事務職員の職務内容も変わるとされる。そのタイミングで、予算の配当方法の見直しをお願いしたい。	○他都市では、ご提案のような予算執行を行っている例もある。検討していきたい。